

授業科目名	文学	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	稲垣 広和	単位	2	年次	1

＝授業のテーマ及び到達目標＝

本講義は日本近現代文学の小説を実際に読解することによって、文学研究の基礎を理解することを目標とする。さらに「文学作品」を読解する上で必要と考えられる周辺領域についても学修する。例えば「文学と政治」「文学と経済」「文学と性」「文学とサブカルチャー」などいろいろなテーマを作品中から見つけ出し、受講生全体で意見を出しながら講義を進めていく予定である。講義形態ではあるが、積極的に意見交換の場とするつもりであり、双方向の議論が出来るようにする予定である。

＝履修の条件と学習の方法＝

履修に関しては特に条件はないが、日本の小説およびその周辺領域等に興味を持っている学生に受講してほしい。講義内では受講生に積極的に意見を求めるので高い問題意識を持って講義に臨んでもらいたい。また講義中に感想文を求めることもある。資料配布に関しては、当日配布のみとし、資料の予備は保管しない。講義中の私語は禁止とし、他の受講生に迷惑をかけると判断した場合は退室を求める場合もある。30分以上遅刻した場合は欠席と見なし、遅刻、早退、中途退席等2回で欠席1回とする。講義中の課題や宿題の提出は、提出期限以外は提出不可とする。

＝授業の概要＝

日本の文学を学ぶ場合、いくつかの方法論（学ぶためのルール）がある。本講義では夏目漱石をモデルケースとして「文学の学び方」を学ぶ。文学研究の一番オーソドックスなものは、作家論的アプローチと作品論的アプローチである。これらの方法を通して授業計画のキーワードに記載した文学の諸問題に関して理解し、さらに学問研究の基礎を学修する。

＝授業計画＝

- 1回 講義ガイダンス シラバス（講義の目標や内容）の確認 （キーワード）講義の概観
- 2回 近現代文学史概論 （キーワード）近現代の日本文学の歴史の確認
- 3回 夏目漱石概観① （キーワード）作家論的アプローチ・江戸から明治へ
- 4回 夏目漱石概観② （キーワード）作家論的アプローチ・漱石の青春
- 5回 夏目漱石概観③ （キーワード）作家論的アプローチ・教師として・学者として
- 6回 夏目漱石概観④ （キーワード）作家論的アプローチ・漱石の戦争認識
- 7回 夏目漱石概観⑤ （キーワード）作家論的アプローチ・漱石の文明論、社会認識
- 8回 夏目漱石の小説概観 （キーワード）作品論的アプローチ・漱石の小説概説、文学史的位置
- 9回 漱石の小説①「倫敦塔」 （キーワード）作品論的アプローチ・作品構造、文学における幻想性、
- 10回 漱石の小説②「倫敦塔」 （キーワード）作品論的アプローチ・外国文学との関わり
- 11回 漱石の小説③「琴のそら音」 （キーワード）作品論的アプローチ・漱石と落語、文学と心理学
- 12回 漱石の小説④「琴のそら音」 （キーワード）作品論的アプローチ・「坊っちゃん」の続編としての物語
- 13回 漱石の小説⑤「三四郎」 （キーワード）作品論的アプローチ・「三四郎」概観、「三四郎」のモデルと評価
- 14回 漱石の小説⑥「三四郎」 （キーワード）作品論的アプローチ・青春小説、上京小説、恋愛小説、成長小説
- 15回 漱石の小説⑦「三四郎」 （キーワード）作品論的アプローチ・役割の変位性について、「新しい女性」について

=テキスト（必携）=

講義中に配布

=参考書・参考資料（必携）=

講義中に指示

=成績評価の方法と評価の基準=

期末にレポート試験を行う。また第7回終了時に中間テストとしてレポート課題を課す。
評価はレポート（中間・期末）で60%、講義毎のリアクションペーパーで40%、出席点はなし。

=その他=

講義中に配布する資料が多いので、専用のファイルを作成してください。また高等学校で学修する歴史（日本史および世界史）の知識が必要になる場合があります。それらを既修のものとして講義が進められる場合もありますので、必要に応じて予習・復習の課題としてください。